

ブロック造の塀の点検票

点検は、次の6項目について行ってください。

1 塀は高すぎないか	点検結果	
	適合	不適合
<p>塀の高さは、地盤から2.2m以下かどうか調べてください。</p> <p>地盤に差があるところは、低い方の地盤から測る。</p> <p>側溝に沿ったところは、側溝の底から測る。</p> <p>いしづみ石積の近くにある塀は、図のように測る。</p>		

2 塀の厚さは確保されているか	点検結果	
	適合	不適合
<p>塀の厚さは15cm以上かどうか調べてください。 (高さ2m以下の塀にあっては10cm以上)</p>		

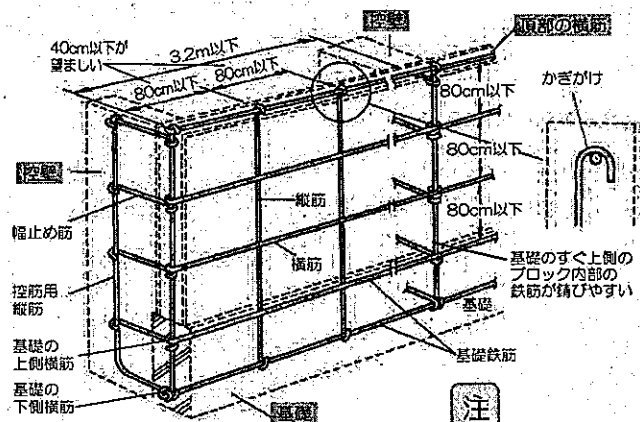
3 塀に鉄筋は入っているか

点検結果

適合 不適合

直径9mm以上の鉄筋が、塀の中に次の①、②及び③のように入っているか調べてください。この点検は、塀を造った施工者などと相談して行ってください。

- ①鉄筋は、縦横とも80cm以下の間隔で入っているか。(縦筋は40cm以下が望ましい。)
- ②縦筋は、頂部の横筋にかぎがけされているか。また、基礎の下側の横筋にかぎがけされているか。
- ③控壁の鉄筋は、図のように入っているか。



注
10年以上経った塀は、雨水などにより鉄筋が錆びている場合が多いので、注意して調べてください。

- 内部の鉄筋の点検方法
鉄筋探査機等により、鉄筋位置を調べる必要がありますので、専門家に相談しましょう。

4 控壁はあるか

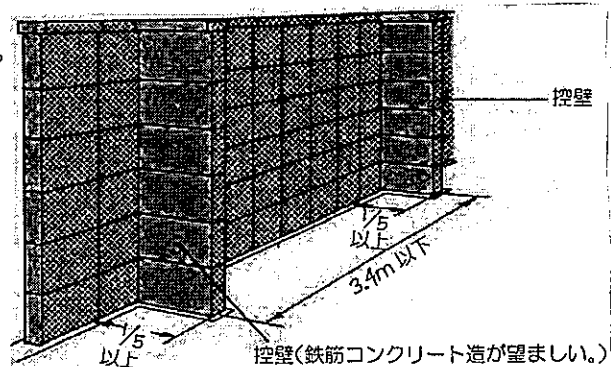
点検結果

適合 不適合

※高さ1.2m以下の塀は除外される規定です。

控壁は、次の①及び②について調べてください。

- ①控壁は塀の長さ3.4m(ブロック8個)以下ごとに設置されているか。
- ②控壁の長さは高さの1/5以上あるか。



5 基礎の丈・根入れはあるか

点検結果

※高さ1.2m以下の塀は除外される規定です。

適合

不適合

コンクリート基礎の丈は、35cm以上で、地盤から30cm以上根入れされていることが必要です。

まわりを掘って調べてください。(根入れは40cm以上が望ましい。)

※「丈」とは、基礎自体の高さをいいます。

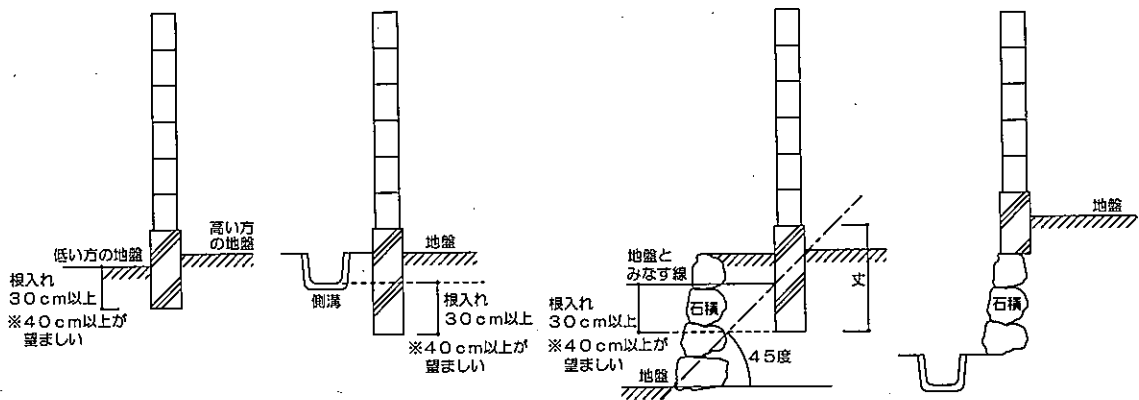
※「根入れ」とは、基礎のうち土の中に入っている部分をいいます。

地盤に差があると
ころは、低い方の
地盤から測る。

側溝に沿ったとこ
ろは、側溝の底か
ら測る。

いしづみ
石積の近くにある
塀は、下図のよう
に測る。

いしづみ
石積の上にある塀
は、根入れがない
ものとする



低い方の地盤
根入れ
30cm以上
※40cm以上が
望ましい

側溝
地盤
根入れ
30cm以上
※40cm以上が
望ましい

地盤と
みなす線
根入れ
30cm以上
※40cm以上が
望ましい
石積
45度
地盤

地盤
石積

6 塀の傾き、ひび割れはないか

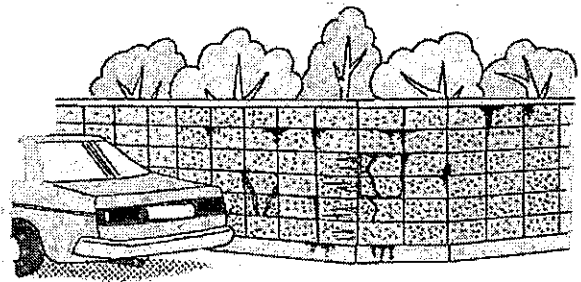
点検結果

適合

不適合

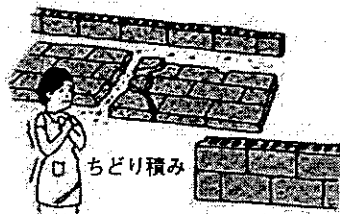
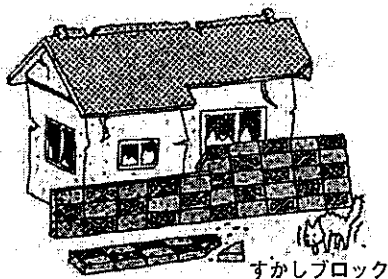
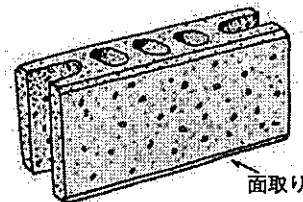
塀が傾いたり、ひび割れし
ていないか、また、鉄筋
が錆びていないか調べて
ください。

※鉄筋の入っているところに
沿ってブロックが茶色に
にじんていたら、中の鉄筋
が錆びています。



注

- 面取りブロックは危険です。
- ちどり積み、すかしブロックのある塀や、鉄柵の入ったブロック塀は、鉄筋が正しく入っていない場合が多いので注意してください。

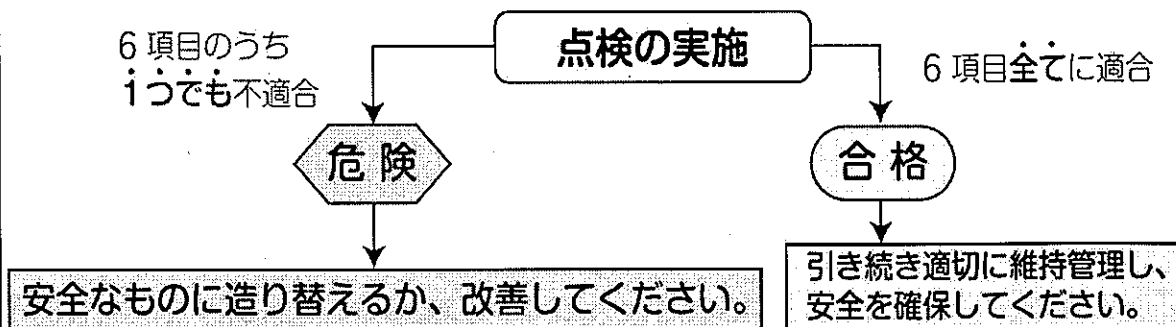


いしづかい 石塀

石塀は、ブロック塀以上に危険なものです。
建築士など専門家に点検してもらい、必要な改善をしてください。



ブロック塀の点検結果について



※高さ1.2m以下の塀は除外項目があるため、4項目の点検でも結果を出すことができます。

- 危険なブロック塀の改善は、困難な施工を伴う場合が多く、改善しても十分に安全性を確保することが難しいため、生垣や金属製フェンスなど軽い柵への造り替えをおすすめします。また、倒壊した際の被害が小さくなるよう、高さを抑える(60cm、ブロック3段程度まで)ことも有効です。